

8月4日(月曜日) 受付 9:50から

○ 開会式 (10時20分~10時30分) 会場；当日受付にてお知らせします。

研究会会長挨拶、大会オリエンテーション(各会場にて)

【10:30~12:10】

1A 「言語発達遅滞の評価と支援」

東京学芸大学 藤野 博

言語発達遅滞には、自閉症スペクトラム障害(ASD)を背景とする場合や、音声言語のみに問題のある特異的言語発達障害(SLI)などがあり、また、社会(語用性)コミュニケーション障害(SCD)という新たな障害のタイプも今日注目されています。本講義ではそれらの障害についての概説とアセスメントの方法、具体的な指導法・教材例などについて、最新の情報もまじえ基礎から解説します。

1B 「吃音の基礎知識と新たな視点」

東京学芸大学 伊藤 友彦

吃音については従来の研究成果にもとづかない見方や考え方がときどき見うけられます。言語障害を専門とする教師は吃音について可能な限り正確な知識を持ち、その知識を、担任教師や保護者、必要に応じては吃音がある子ども自身に伝えることができなければなりません。この講義では、吃音の基礎知識と最新の知見をわかりやすく紹介し、これまでの知見をふまえた指導、支援の方向について述べます。

1C 「事例が語る言語障害児教育」

東京学芸大学名誉教授 谷 俊治

私の言語障害児教育は、医学部附属病院の音声外来から始まり、教育系大学での臨床実習、「ことばの教室」への往診、障害者施設でのカウンセリングと、様々な事例に遭遇してきました。その中で気づいたことは、それぞれの事例が、治療・指導の方向付けを私に語りかけていたということです。いくつかの事例を紹介しながら、どのような語りかけに気づいたかについて述べてみることにしました。

○ 昼食 (12時10分~13時20分) 食堂にて

【13:20~15:00】

2A 「聴覚障害児の評価と支援」

東京学芸大学 澤 隆史

聴覚障害の特性に関する基礎的事項を踏まえて、聴覚障害児の支援について特に言語発達を評価する際のポイントと具体的な評価方法について学びます。また対人関係の発達や心理面での支援について、主に通常学校での児童・生徒を対象とした発達上の課題や支援の際に留意すべき点について解説します。

2B 「吃音児の理解と支援の実際」

福岡教育大学 見上 昌睦

吃音のある子どもへの多面的・包括的な指導・支援は大切です。本講座では、講師が取り組んできた吃音の進展した子どもに対する流暢性を促すための直接的言語指導を核とし、家庭や学校等における環境調整と、本人へのカウンセリング的対応による指導・支援の実際について、事例を基に紹介します。

2C 「WISC-IV~その解釈と活用」

船橋市立三咲小学校 大山 恭子

発達障害を持つ子どもに対して効果的な支援を行うためには、行動観察や検査等による適切な実態把握が不可欠です。そこで、WISC-IVの検査結果の解釈の仕方を学び、得意な認知能力を活用した具体的な支援の方法や、事例を通じた実際の支援への活用のご紹介いたします。

【15:20~17:00】

3A 「構音障害の評価と支援」

元西東京市立保谷小学校 中村 勝則

発音を改善するためには、指導者には子どもの発音の状態を的確に評価する力が、子どもには音を聞き分ける鋭い耳と思い通りに動く口が必要です。そのような評価力を身につけるための手立てと子どもの耳と口を育てるための具体的な指導法を紹介しながら、構音指導の基本的な枠組を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

3B 「聴覚障害児の支援の実際」

東京学芸大学 濱田 豊彦

聴覚障害児の言語発達支援について、聴覚活用や口話、手話などのコミュニケーション方法や支援方法の変遷、様々な方法の長所・短所などを概説します。また聴覚障害児の言語発達の様相を分析し、言語の指導方法について、そのポイントと具体的な方法について説明します。参加者からも具体的な事例について、活発な発言をお待ちしております。

3C 「感情をコントロールできない子の理解と支援」

東京学芸大学 大河原 美以

本講座では、すぐにきれたり暴言をはいたりして不快感情をコントロールすることが困難な状態にあ

子どもをどのように支援したらよいかを学びます。不快感情をコントロールする力は親子の関係の中でどのように育つのか、「問題」はさらに教室の中でどのように増幅されているのかなどを明らかにしながら、きれやすい子どもを効果的に支援するための教師の関わり方をお伝えします。

**8月5日(火曜日) 8/5から参加の方の受付 8:50から**

**【9:15~10:55】**

**4A 「事例検討の意義と進め方」**

**有明教育芸術短期大学 羽田 紘一**

言語障害児の指導を効果的に行うには、現在進めている指導が有効であるか否かを検証することが必要です。その検証がないままに進める指導は時間の無駄になります。検証の方法としては、「事例検討・事例研究」を定期的に行うことが有効です。この講座では、『短縮事例法』という実施しやすい方法を紹介し、演者が提示する事例を用いた演習を行います。

**4B 「側音化構音・口蓋化構音の指導Ⅰ～歪み音の理解と聞き取り」**

**帝京平成大学 山下 夕香里**

側音化構音や口蓋化構音は歪み音です。慣れていないと聞き取りが難しく、指導で悩むことが多いのが現状です。いろいろなお子さんの発音の動画を見ていただき、聞き取りのポイントや舌の動きの観察法についてお話しします。はじめての先生方も是非ご参加下さい。

**4C 「幼児のことばの相談」と「保育臨床相談」～子どもの学ぶ力が働き出すことばの相談・支援～**

**國學院大學 野本 茂夫**

子どもがより良く育つことを第一に支援のあり方を考えます。この講座は幼児のことばや聴こえ、人とのコミュニケーションに関わる問題への対応がテーマです。ことばの問題は氷山の一角に例えられます。人生の基礎基本が育まれる幼児期のことばを巡る問題への対応を考えるにはびつたりの表現です。ことばの問題が絡んで裾野を広げる発達障害のある子どもへの対応など、幼児の相談・支援を考えます。

**【11:15~12:55】**

**5A 「言語発達遅滞の支援の実際」**

**東京学芸大学 大伴 潔**

本講座では、「語彙を育てる」「文を構成する」「文章で表現する」「効果的に伝える」といった言語領域の発達過程を概観しながら、適切な支援目標の立案と、興味を持たせる課題を通じた支援について考えていきます。言語評価法の例として学齢児版のアセスメント「LCSA」を取り上げ目標設定のあり方を考えるとともに、言語発達支援の効果的なアプローチについて検討します。

**5B 「側音化構音・口蓋化構音の指導Ⅱ～舌を平らにする方法」**

**帝京平成大学 山下 夕香里**

側音化構音や口蓋化構音のお子さんは、発音時に舌の奥がもりあがり、前に出そうとすると細長く緊張します。舌を横に広げて平らに保ち、舌の横の感覚や舌尖のコントロール性を高めると音の指導がやりやすくなります。舌のトレーニングを実際に体験していただきたいと思います。鏡、舌圧子、ストローク(細いもの)、ペンライトなどをご用意ください。ご一緒に練習してみましょ。

**5C 「基礎から学ぶ描画テスト」**

**國學院大學 石川 清明**

コミュニケーションに障がいのある子どもの指導に、「描画テスト」を活用することが注目されていますが、結果の解釈が妥当であることが求められます。本年度は「樹木画テストが実施できるようになること」を目標に、検査の背景や特性、利用の変遷と現状、実施時の問題点と限界など基礎的な理解を深めます。本格的な解釈の実際については次年度に行います。鉛筆と消しゴムを持ってご参加ください。

**○ 昼 食 (12時55分~14時00分) 食堂にて**

**【14:00~16:10】**

**6A 大会講演**

**「発達障害やその傾向にある子どもの言語機能と感覚統合理論」 帝京科学大学 石井 孝弘**

コミュニケーションの困難さを理解するためには言葉の学習過程を知る必要があります。構音に問題を抱えているお子さん、構音に問題はないが、話が一方的になったり、質問に対する答えがずれてしまうお子さん。その原因を理解することを感覚統合理論は助けてくれます。遊びを通して受容する感覚刺激とコミュニケーションのツールとしての発達との関係および感覚統合理論の概論についてお話しします。

**6B ワークショップ**

**『多様化する問題に「ことばの教室」はどう対応していくのか~ワールド・カフェで考える「ことばの教室の先生」ができること~』**

**國學院大學 野本 茂夫**

ことばの教室について校内の理解がない。一人担任で指導が心配だ。教室を次の世代にどう引き継げるのか見通しがない。専門性が必要なのに研修ができない。ことばの教室は、様々な課題を抱え、無力感に陥っていないでしょうか。一人で考えてもどうにもならない問題や課題を、リラックスしたカフェの雰囲気の中で、参加者との対話を通して、新しい発想やアイデアを重ね合わせ対策を探っていきます。